

## はじめに

平成 24 年度から中学校で新学習指導要領が全面実施されます。外国語科の授業が年間 105 時間から 140 時間に増え、指導すべき語彙も 1200 語程度となります。これに伴って、生徒が英語を使って、自分の思いや考えを伝えるための発信力やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、まとまりのある一貫した文章を書く力などを育成することが求められています。「教科書をゆっくり指導する」のではなく、「教科書でしっかり指導する」こと、3 時間にプラスされた 1 時間を有効に使う、そうした力を育てていくことが重要です。

さて、本県の中学生の英語の学力は、「表現の能力」特に、「書くこと」において課題があることが、到達度把握検査や公立高等学校入学者選抜等において明らかになっています。そこで本県では、平成 23 年 3 月に高知県英語ライティングシート（試行版）を、9 月には高知県英語ライティングシート（正式版）を作成・配付し、「書くこと」の課題に向けて取り組みを始めたところです。多くの学校で、授業や全校での帯タイム等での活用を進めていただいております。その活用事例を単元テストシステムにおいて配信しています。また、新学習指導要領を踏まえた指導方法及び学習評価の工夫改善や英語ライティングシートの効果的な活用方法について研究を進める「英語パイロットスクール実践研究指定校」での活用事例も今後、掲載する予定です。

『モデルプラン』は、新学習指導要領で示されている外国語科の趣旨や目標、内容を踏まえた指導内容や学習評価について、県としての指針を示したものです。また、年間指導計画や単元計画の立て方、学習評価の具体や 4 技能を統合させた活動例を掲載し、実際の授業づくりに役立つ内容をまとめています。平成 23 年度より全面実施となった小学校外国語活動を踏まえた授業づくり、小中連携や中高連携を図るうえでのポイントも掲載しています。

『モデルプラン』が、県内各中学校における外国語科の一層の充実にとって一助となり、英語を使い、いきいきと自分の気持ちや考えを伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が増えることを期待します

平成 23 年 11 月  
高知県教育委員会

\* 単元テストシステム <http://tangen.kochinet.ed.jp/tgn/main/top.aspx>

# 目次

1	高知県の英語の課題・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	外国語科の目標・新学習指導要領の改善のポイント・・・・・・・・	4
	(1) 学習指導要領改訂の趣旨	
	(2) 変更点	
	(3) 指導改善の方向性	
	(4) 小学校・高等学校との連携	
	(5) 学習指導要領解説(外国語)ダイジェスト版	
3	年間指導計画・単元計画の立て方について・・・・・・・・	13
4	学習評価の在り方について・・・・・・・・	17
	(1) 評価規準の設定における基本的な考え方	
	(2) 評価規準の設定例等の活用	
	(3) 指導と評価の計画	
	(4) 評価に関する用語	
	(5) 事例(教科ミドルリーダー育成事業で使用している様式)	
5	外国語科で目指す授業づくりについて・・・・・・・・	29
	(1) 授業改善のためのチェックリスト	
	(2) 4技能の統合的な(関連付けた)活動例	
	(3) 文法指導と言語活動を一体化させた活動例	
	(4) 語彙指導	
	(5) 辞書指導	
6	小中連携について・・・・・・・・	45
	(1) 小・中学校の目標について	
	(2) 評価の観点及びその趣旨について	
	(3) 小中連携の具体について	
	(4) 小中連携の進め方について	
7	中高連携について・・・・・・・・	56
8	その他・・・・・・・・	59
	・ 到達目標例	
	・ CAN-DO リストについて	
	・ 学習指導案の書き方例	
	・ Q and A	
	・ 教材について	
9	資料編・・・・・・・・	69





Hello!  
I'm Matrikkuma.  
Nice to meet you.  
マトリックス表を  
活用してね!

# 1 高知県の英語の課題



到達度把握調査や高知県公立高等学校入試選抜等の結果から高知県の中学生の英語の学力には、大きな課題が見られます。

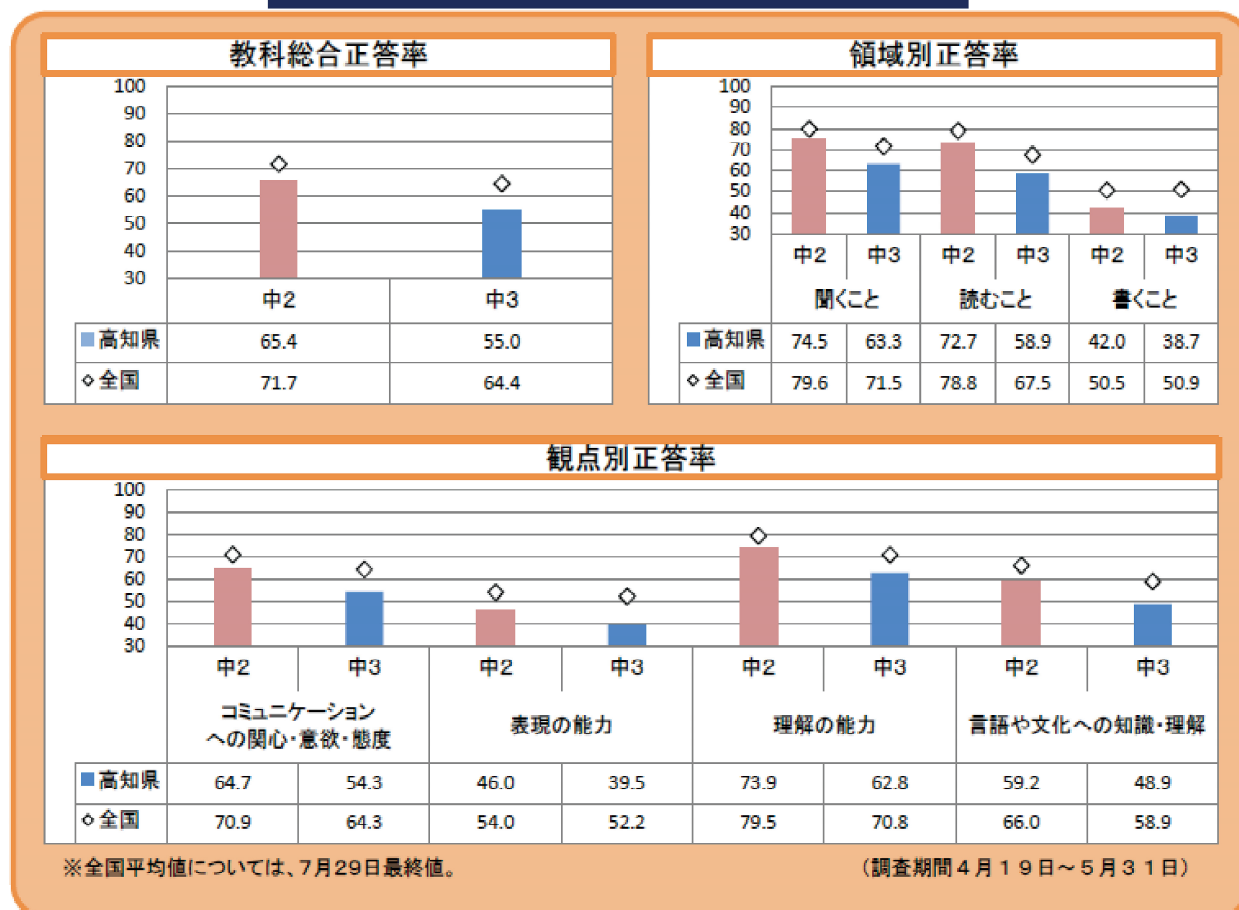
下のグラフは、平成23年度実施の到達度把握調査の結果です。教科総合正答率では、中学2年では6.3ポイント、中学3年では9.4ポイント全国平均値より低くなっています。

領域別正答率では、「読むこと」が中学2年では6.1ポイント、中学3年では8.6ポイント全国平均値より低くなっています。また、「書くこと」が中学2年では8.5ポイント、中学3年では12.2ポイント全国平均値より低くなっています。

観点別正答率では、「表現の能力」が中学2年では8.0ポイント、中学3年では12.7ポイントも全国平均値よりも低い結果となっています。

つまり、高知県の生徒は、英語の学力において、「表現の能力」が低く、特に「書くこと」に課題があります。

## 平成23年度到達度把握調査結果より



次の表は平成19年度から23年度の高知県公立高等学校入試選抜における平均点と正答率の推移です。正答率の推移を見ても、「表現の能力」の「書くこと」が他の領域に比べても、低い結果が見られています。しかし、年々正答率は高くなっており、それぞれの学校において「書くこと」を意識した授業づくりが進んでいることが考えられます。

## 高知県公立高等学校入学者選抜結果より

### ○平均点の推移

年度	23	22	21	20	19
平均点	22.9	21.4	22.9	22.7	27.8

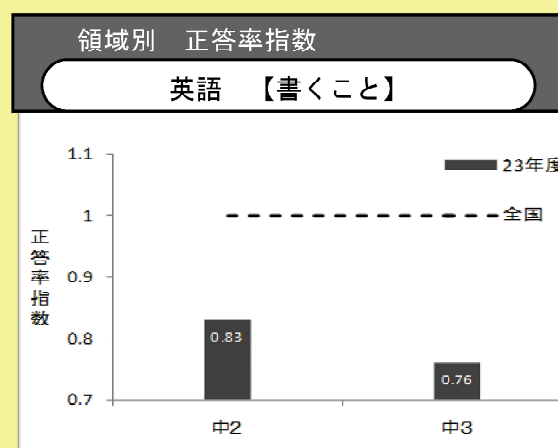
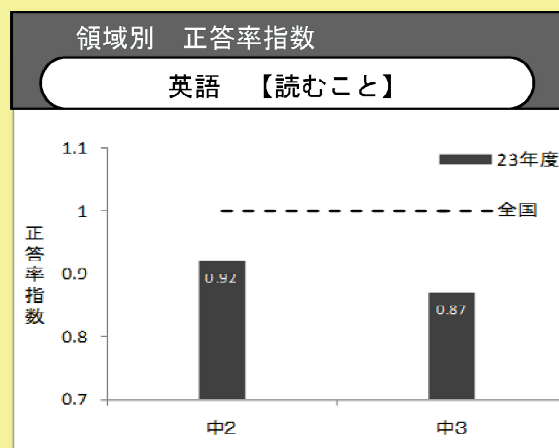
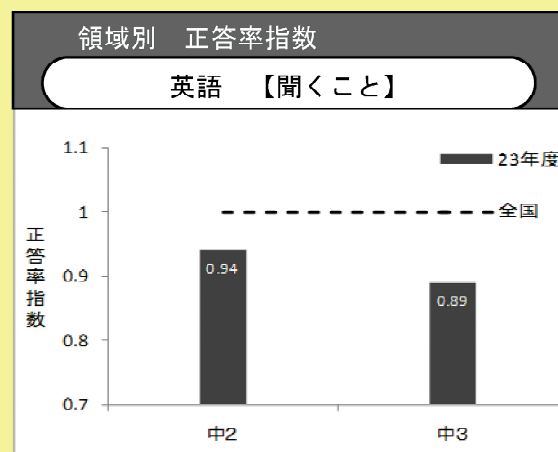
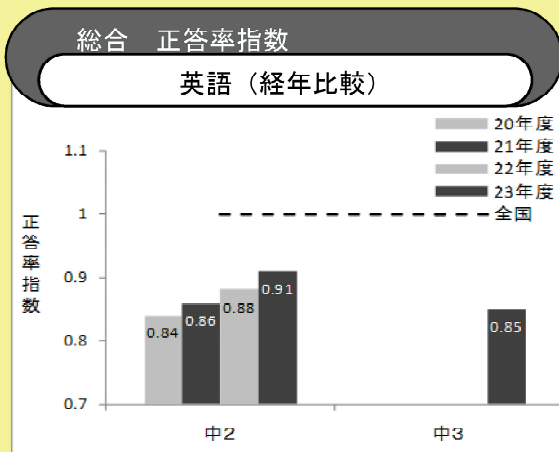
### ○正答率の推移

年度		23	22	21	20	19
理解の能力	聞くこと	63.8	64.8	81.3	74.1	74.4
	読むこと	48.2	40.1	40.6	41.4	57.7
表現の能力	書くこと	30.6	28.9	26.1	27.8	38.7

下のグラフは、前ページで示した、同じく到達度把握調査の結果で、平成20年度からの経年の変化を表したものです。教科総合正答率指数、次ページの「表現の能力」、「言語や文化についての知識・理解」は、だんだんと上がってきています。しかし全国平均からはかなり低い状況です。



## 英語

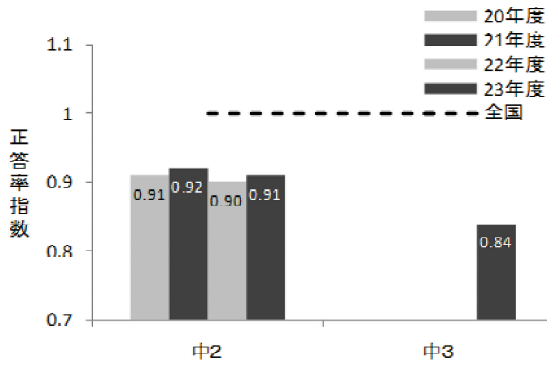


結果が見られています。しかし、年々正答率は高くなっており、それぞれの学校において「書くこと」を意識した授業づくりが進んでいることが考えられます。

# 英語

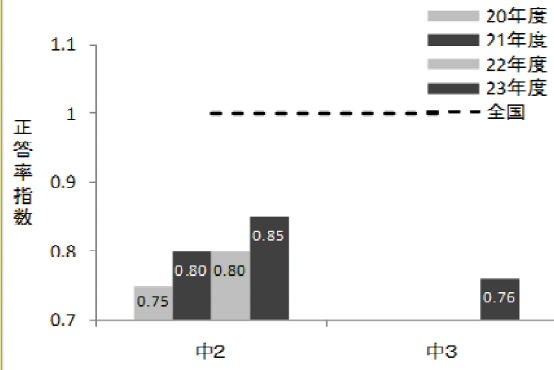
観点別 正答率指数

## 英語【関心・意欲・態度】



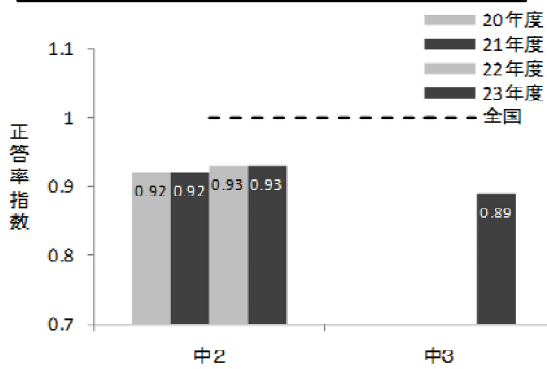
観点別 正答率指数

## 英語【表現の能力】



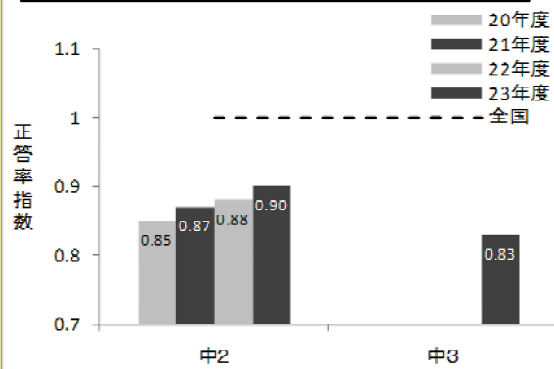
観点別 正答率指数

## 英語【理解の能力】



観点別 正答率指数

## 英語【知識・理解】



### 課題解決に向けての授業づくり

☆これらの課題から、次のような授業づくりが求められます。

#### 4技能を総合的に指導すること

「書くこと」も含めて、4技能をバランスよく指導するように年間指導計画をたてましょう。

#### 小学校外国語活動を踏まえた指導をすること

音声中心の外国語活動で慣れ親しんできた語彙や表現、活動等を知ったうえで授業づくりをしましょう。

#### 4技能を統合的に指導すること

各単元で、学習指導要領のどの言語活動の指導事項にねらいをおいて指導するかを明確にし、各領域を関連付けて指導しながら、下の二つの活動（「基礎・基本の定着」「活用」）をバランスよく取り入れましょう。週4時間になったことで、「教科書を、時間をかけてゆっくり指導する」のではなく、「教科書で、しっかり指導をする」。プラス1時間で効果的に「活用」を図る授業づくりをしましょう。

基礎・基本  
の定着

言語材料について理解したり練習したりする活動

活用

実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動

## 2 外国語科の目標・新学習指導要領の改善のポイントについて

### (1) 学習指導要領改訂の趣旨

■「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。(※総合的に=4技能をバランスよく)

参照 P30

■4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう教材の題材や内容を改善する。

■4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。

参照 P35

■コミュニケーションを内容的に充実したものとするができるよう、指導すべき語数を充実する。

参照 P38

■音声面での指導については、小学校外国語活動を踏まえた指導内容の改善を図る。併せて、「読むこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることにより、4つの領域をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。

参照 P45～55

### (2) 変更点

授業時数	各学年週3時間	→	各学年週4時間
目標	「聞くこと」・「話すこと」に重点	→	4技能の総合的な育成
言語活動	各領域4項目	→	各領域5項目
言語活動の取扱い	小学校外国語活動で育成された「素地」への配慮(特に第1学年)		
指導語数	900語程度まで	→	1200語程度
教材の題材	伝統文化と自然科学を追加		
指導計画の作成	小学校外国語活動との関連に留意		

### (3) 指導改善の方向性 ～時数増をどう生かすか～

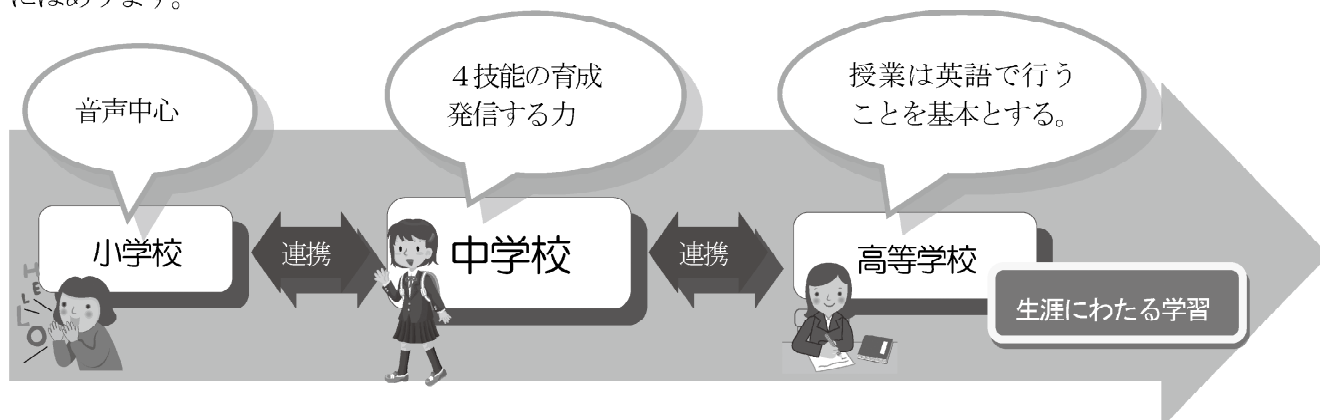
#### 言語活動の充実

言語活動や言語材料の内容はほとんど増加はありません。  
「中身の充実」を意識し、これまで十分できなかったことなどを各学校で整理し、増えた時数を活用する工夫をしましょう。  
特に知識・技能の活用を図る言語活動の充実を!

#### (4) 小学校・高等学校との連携 ～中学校こそ変わらなければならない～

	目 標
小学校	外国語を通じて、言語や文化について <u>体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。</u>
中学校	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、 <u>聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。</u>
高等学校	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、 <u>情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</u>

それぞれの校種での特性をしっかりと把握して、小学校を受け継ぎ、高等学校にバトンを渡す役割が中学校にはあります。



では、小学校との連携において、中学校では何が求められているのでしょうか。

#### 中学校での工夫・支援

近隣の小学校での外国語活動の授業内容や児童の状況の把握、指導者（主に学級担任）への支援

小学校から中学校へのソフトランディングを可能にする「接続」のための（特に入門期）指導の工夫

児童が抱くであろう中学校への期待感にこたえ、外国語活動の有用性を感じられるような授業の工夫

## (5) 学習指導要領解説（外国語）ダイジェスト版

### ポイント

単に「聞いたり」「読んだり」したことを理解のレベルにとどめることなく、それを更に自分の体験あるいは考えと結び付けて「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう4技能を総合的に育成する指導を充実する。

### ◆改訂の要点

外国語科の目標と内容	補 足 点
<p><b>(1) 目標</b> 外国語を通じて、①言語や文化に対する理解を深め、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、③<u>聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと</u>などのコミュニケーション能力の基礎を養う。</p>	<p>○外国語の目標は、「コミュニケーション能力の基礎を養うこと」。この趣旨は変わっていない。その実現のために①②③の3点を念頭に置くこと。 ○③を最後に置くことで、最重要事項として強調し、併せて、4技能の総合的な育成を明示。 ○小学校外国語活動が導入され、音声面を中心とした外国語のコミュニケーションの素地が養われることを踏まえ、「聞くこと」、「話すこと」に加え「読むこと」、「書くこと」を明示。</p>
<p><b>(2) 内容等の改善の要点</b> 内容については、その構成は変わっていないが、現在の課題を踏まえた指導の充実を図るため、領域ごとに示す言語活動の指導事項を1項目ずつ追加または再編成し、各5項目としている。</p>	<p>○今回追加及び再編成した指導事項は、現行にない全く新しいものを加えたという趣旨ではない。<u>現行においても十分行われている指導を、あえて言語活動の指導事項に示したことは、その力をつけてやってほしいというメッセージ。</u></p>
<p><b>(3) 外国語科における「指導計画の作成と内容の取扱い」の改善の要点</b></p>	<p>○<u>小学校における外国語活動との関連に留意し</u>、指導計画を適切に作成すること。 ○<u>道徳の時間などとの関連を考慮しながら</u>、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p>

### ◆目標及び内容

1 英語の目標	補 足 点
<p>① <u>初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。</u></p>	<p>○3年間でコミュニケーション能力の基礎を育成できるよう、<u>各学校が生徒の実態に応じて学年ごとの目標を設定すること</u>が大切。</p>
<p>② <u>初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。</u></p>	<p>○小学校で外国語活動が導入され、音声面で一定の素地が育成されることを踏まえ、①、②から「英語を聞くことに慣れ親しみ」「英語で話すことに慣れ親しみ」というフレーズを削除している。③、④は変更なし。</p>
<p>③ <u>英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。</u></p>	<p>○初歩的な英語→「2（3）言語材料」に示された語や文法事項などの範囲の英語を指す。</p>
<p>④ <u>英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。</u></p>	<p>○現行と同じく、①から④において、単に英語を表面的、機械的に理解したり表現したりする能力にとどまらず、<u>より踏み込んだ能力を目標とし、実際に英語を使用してコミュニケーションを図ることを念頭に置いている。</u></p>



2 英語の内容 (1) 言語活動		補足点及び指導上の留意点
英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を、3年間を通して行わせる。		<p>○3年間を通して一括して示すことで、生徒の学習の習熟の程度に応じ必要な内容を繰り返して指導するなど、教師が創意工夫できるようにしている。</p> <p>○4領域にわたる言語活動をバランスよく計画的・系統的に行うことが大切。</p>
主として次の事項について指導する。 下線部は修正、追加、再編成のあった指導事項		
ア 聞 く こ と	(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。	<p>○小学校段階で「聞くこと」についてある程度慣れ親しんでくることとなるので、生徒の状況を把握し、柔軟に対応。</p> <p>○5項目の指導を行う。</p>
	(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、 <u>情報を正確に</u> 聞き取ること。	○ここでの「情報を正確に聞き取る」とは、一文レベルの比較的短い英文を聞いて、音変化やスピードに対応し、事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解することを意味する。
	(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。	<p>○相手からの質問や指示、依頼、提案などに際して、その意図を正しく理解し、適切に応じる。</p> <p>例：Will you open the window? →窓を開ける。</p> <p>○場面の設定に工夫しながら幅広く言語活動を行う。</p>
	(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を <u>確認しながら</u> 理解すること。	<p>○聞き返しや確認に必要な表現を指導し、コミュニケーションを継続しようとする積極的な態度の育成を図る。</p> <p>例：Pardon? You mean ..., right? など。</p>
	(オ) <u>まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に</u> 聞き取ること。	○スピーチや機内アナウンス、天気予報など、一つのテーマに沿って話されたものや、内容に一貫性のあるまとまりのある複数の英文を聞いて多くの情報から、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解すること。

下線部は修正、追加、再編成のあった指導事項	補足点及び指導上の留意点
<p>(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を<u>とらえ</u>、正しく発音すること。</p>	<p>○「聞くこと」の(ア)に対応するもの。</p> <p>○小学校外国語活動を踏まえ、「慣れ」から「とらえ」へ前進。日本語との違いを取り上げるなどして英語の特徴を理解させる。</p> <p>○繰り返して指導し定着させる。その際、日本語との違いを取り上げるなどして英語の特徴を理解させる工夫が必要。</p>
<p>(イ) 自分の考えや気持ち、<u>事実</u>などを聞き手に正しく<u>伝える</u>こと。</p>	<p>○適切な音量で、大切なところは強調、繰り返し、言い直し等をして、聞き手に正確に伝える。</p>
<p>(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。</p>	<p>○スピーチや視聴覚教材などを聞いたり、手紙や読み物教材などを読んだり、ポスターや図表などを見たりして理解したことについて、互いに分からない点を確認したり、答えたり、自らの感想や考えを伝え合う等、統合的な活動。</p> <p>○教師→生徒、生徒→教師、生徒⇔生徒など。</p>
<p>(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして<u>話を続ける</u>こと。</p>	<p>○積極的に会話を継続・発展させていく態度や能力を育てるための活動の目標をより明確にしたもの。</p> <p>○つなぎ言葉→ Let me see. Well.など。</p> <p>○工夫→質問する。身振り手振りや既習の表現を使う。</p> <p>I see. Sure. などの相づちをうつ表現など。</p>
<p>(オ) <u>与えられたテーマ</u>について簡単なスピーチをすること。</p>	<p>○学校や日常生活で体験したことや自分の夢など、学習段階や興味・関心に応じてテーマを与え、意見や主張を聞き手に分かりやすく話すこと。(含 Show &amp; Tell)</p>

下線部は修正、追加、再編成のあった指導事項	補足点及び指導上の留意点	
ウ 読むこと	(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。	○小学校での素地を踏まえ、「読むこと」への円滑な接続を図ること。
	(イ) 書かれた内容を考えながら <u>黙読</u> したり、その内容が表現されるように <u>音読</u> すること。	○「黙読」と「音読」を効果的に組み合わせること。 ○黙読→自分に合った速度で読んだり、確認のため繰り返して読んだり、前に戻って読み返したりして柔軟な読み方することができる。 ○音読→意味内容を正しく理解し、その内容にふさわしく音声化をする。強弱、声の大きさ、読む速さを変えるなど、感情豊かに表現し合う。
	(ウ) <u>物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取る</u> こと。	○まとまった内容について、いくつかの情報を整理して、書き手の伝えようとすることを正確に理解すること。 ○手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたり、設問の仕方に工夫をする。
	(エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を <u>理解し、適切に応じる</u> こと。	○書き手が伝えたい意思や考えを正しく理解することが前提。返事を書いたり、電話をかけたり、メモを書いたり、簡単な絵や図表を用いたりして応じる。 ○R→W、Sという統合的な活動。「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」に結び付ける。 ○目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行うこと。
	(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。	○R→W、Sという統合的な活動。「読むこと」を通して得られた知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」に結び付ける。 ○目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行うこと。

下線部は修正、追加、再編成のあった指導事項	補足点及び指導上の留意点
<p>(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに<u>注意して正しく書くこと</u>。</p>	<p>○「読むこと」の(ア)に対応するもの。 ○「書くこと」でもっとも基本的な技能の習熟を求めたものであり、繰り返し指導する。小学校との連携を図る。</p>
<p>(イ) 語と語のつながりなどに<u>注意して正しく文を書くこと</u>。</p>	<p>○構造や語法の理解が不十分という課題に対応。 ○英語では意味の伝達において<u>語順</u>が重要な役割を担っていることを強調したもの。 ○文構造や語法を理解させるために、語の配列や修飾関係などの特徴を<u>日本語との対比</u>でとらえた指導も有効。</p>
<p>エ 書 く こ と</p> <p>(ウ) 聞いたり読んだりしたことについて<u>メモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたり</u>などすること。</p>	<p>○「読むこと」の(オ)に対応。 ○L、R→Wの統合的な活動。 ○言語に関する能力の育成を重視して、「その理由」を追加。 I thinkやI agree、because などの表現を提示するなど。 ○聞いたり読んだりしたことを基にコミュニケーションを図らせるような指導が大切。</p>
<p>(エ) <u>身近な場面における出来事や体験したこと</u>などについて、<u>自分の考えや気持ち</u>などを書くこと。</p>	<p>○実際の自分が体験したことなどについて自分の考えや気持ちなどを自由に書く活動。「書くこと」に対する意欲を高める指導として工夫をすること。</p>
<p>(オ) <u>自分の考えや気持ち</u>などが読み手に正しく伝わるように、<u>文と文のつながり</u>などに注意して文章を書くこと。</p>	<p>○内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が不十分という課題に対応したもの。 <b>読み手に正しく伝わる</b> so やthenなどの接続詞や副詞も使って、文と文の順序、相互関連に注意し、全体として一貫性のある文章を書くこと。 <b>文と文のつながり</b> 接続詞、副詞、itなどの代名詞、Japan を the country と言い換えたりするなどの手法も用いて、一貫性の高い文章を作る。</p>

(2) 言語活動の取扱い	補足点及び指導上の留意点
<p>◆3学年間を通じた指導について</p> <p>☆ キーワード 【繰り返し学習と活用】</p>	<p>○実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、それを支える言語材料について理解したり練習したりする活動も必要。</p> <p>○以前に学習した内容をスパイラルに繰り返して学習することで、言語材料の定着を図るとともに、言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動において、身に付けた言語材料等を実際に活用させることが重要。</p>
<p>◆各学年の指導について</p>	<p>○第1学年において言語活動を行う際には、<u>小学校の外国語活動でも慣れ親しんだことのあるような身近な言語の使用場面や言語の働きを取り上げることで、中学校における外国語の学習の円滑な導入を図ることが重要。</u></p> <p>○第1学年の指導においては、「読むこと」「書くこと」などの文字を使った言語活動について、<u>中学校で本格的に学習を開始することに配慮し、生徒が過度の負担を感じないように指導することが重要。</u></p>
<p>(3) 言語材料</p> <p>◆語、連語及び慣用表現について</p>	<p>○語彙の充実を図り、授業時数増と相まって一層幅広い言語活動の充実を図る。</p> <p>→ 運用度の高いもの(1200語程度)を用い、<u>活用を通して実際に運用できる語として定着を図ること。</u></p> <p>○教科書に掲載される語が1200語に絞られるという意味ではない。</p> <p>○「運用度の高いもの」とは、「言語活動の取扱い」に示された〔言語の使用場面の例〕や〔言語の働きの例〕として挙げられている場面や働きにおいてよく使われる身近な語や連語及び慣用表現のこと。</p> <p>○単に機械的に記憶させるのではなく、あくまで具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることが極めて大切。</p>
<p>◆文法事項について</p>	<p>○(イ)の「文型」が「文構造」に。型に分類する指導ではなく、文構造自体に目を向けることを意図。あくまでも、活用するための手立て。</p> <p>○関係代名詞、to不定詞、動名詞については、「<u>基本的なもの</u>」を削除。</p> <p>○受け身については、「<u>現在形及び過去形</u>」を削除、<u>未来表現も指導内容として加わった。</u></p> <p>○「<u>理解の段階にとどめる</u>」としていた事項についてはその制限を削除。</p>

	<p>→ <b>表現の段階まで指導</b>する。</p> <p>①主語＋動詞＋ what など<span style="background-color: #e0e0e0;">で始まる節</span></p> <p>②主語＋動詞＋間接目的語＋ how (など) to 不定詞</p> <p>③関係代名詞のうち、主格の that、which、who 及び目的格の that、which の制限的用法</p>
<p><b>(4) 言語材料の取扱い</b></p>	<p>○発音と綴りとを関連付けて指導する。</p> <p>○正しい文法の基礎は不可欠。言語活動と効果的な関連を図るとは、意味や機能を十分に理解させたうえで、既習の語彙や文法事項と関連を図り、言語活動の中で伝え合うことへ生かす指導を行うこと。実際に活用できるように指導する。</p> <p>○現在形や過去形の指導の後、時制として整理したり、不定詞や関係代名詞などを修飾という側面から整理するなど、関連のある文法事項については、より大きなカテゴリーとして整理して理解させることが必要。文法事項の効果的な指導法の一つとして明示。</p>
<p><b>3 指導計画の作成と内容の取扱い</b></p> <p><b>(1) 指導計画の作成上の配慮事項</b></p>	<p>○<b>各学校において、生徒や地域の実態に応じて、学年ごとの目標を適切に定める。</b></p> <p>○言語材料については、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導する。</p> <p>○音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して言語材料を継続して指導する。また、音声指導の補助として、必要に応じて、発音表記を用いて指導することもできる。</p> <p>○文字指導に当たっては、生徒の学習負担に配慮し、筆記体を指導することもできる。</p> <p>○語、連語及び慣用表現については、運用度の高いものを用い、活用することを通して定着を図るようにする。</p> <p>○<b>辞書の使い方に慣れ、活用できるようにする。</b></p> <p>○生徒の実態や教材の内容などに応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用したり、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たりなどすること。学習形態を適宜工夫すること。</p>

### 3 年間指導計画・単元計画の立て方について

#### 年間指導計画の立て方

##### (1) 作成の前に



Q1：学習指導要領解説（外国語編）の内容は理解できていますか？

Q2：学習評価について理解できていますか？

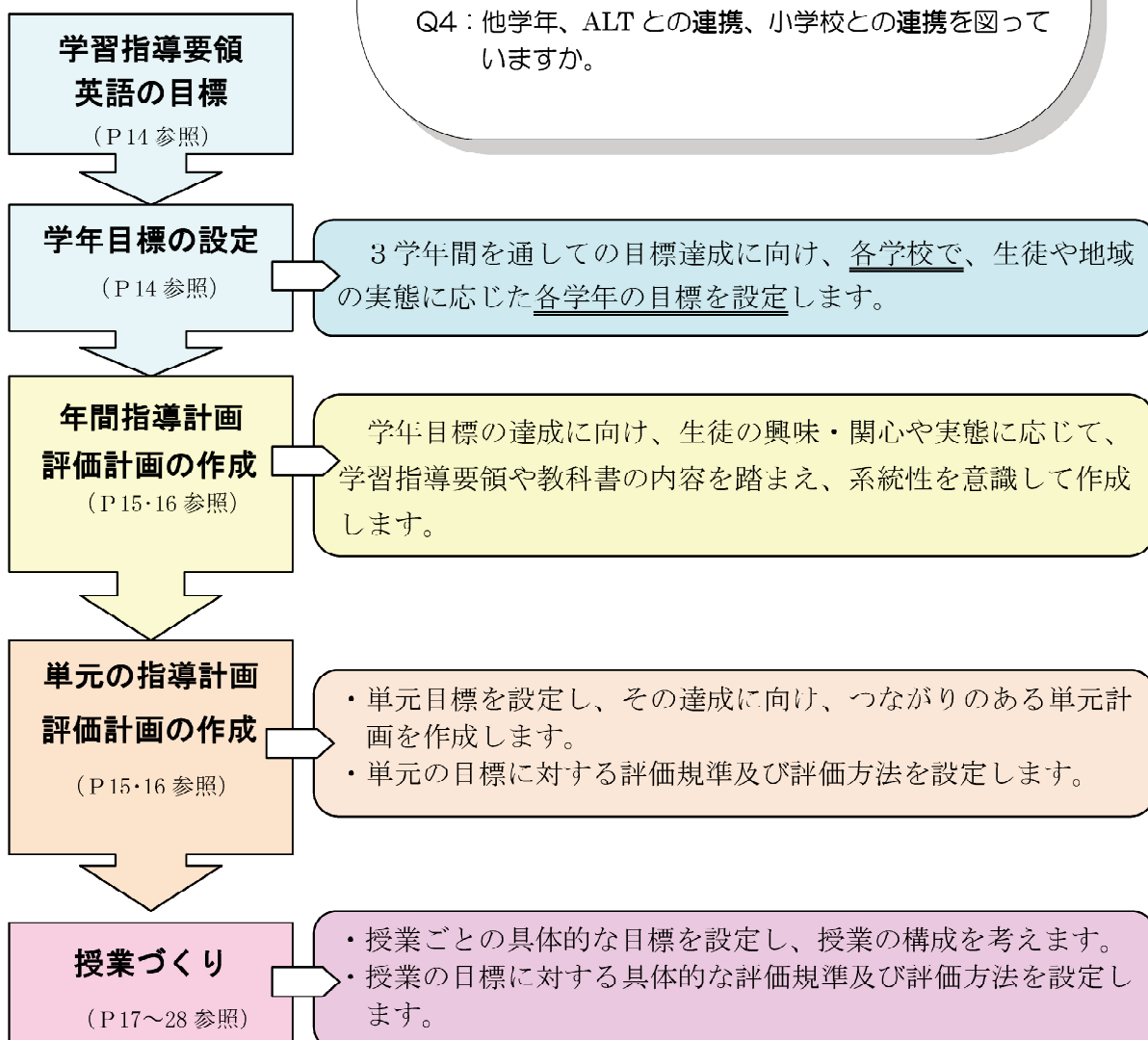
- ＊「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（通知）
- ＊「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校 外国語）
- ＊「言語活動の充実に関する指導事例集」〈中学校 外国語〉

★資料編を参照してください。

Q3：学校教育目標、目指す生徒像など、校内や外国語部会で共通理解し、組織で取り組む体制はできていますか？

Q4：他学年、ALT との連携、小学校との連携を図っていますか。

##### (2) 作成のおおまかな流れ



# ステップ1

## 各学年の目標を設定しましょう。(4技能ごとに設定することが望ましい)

### 学習指導要領 英語の目標

聞くこと	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
話すこと	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
読むこと	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
書くこと	英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

### 本校の学年目標☆

☆は必須

第1学年	聞くこと	
	話すこと	
	読むこと	
	書くこと	
第2学年	聞くこと	
	話すこと	
	読むこと	
	書くこと	
第3学年	聞くこと	
	話すこと	
	読むこと	
	書くこと	

各学校において、生徒や地域の実態に応じて、学年ごとの目標を適切に定める必要があります。3学年間を通じて英語の目標の実現を図りましょう。



# ステップ2

3年間(各学年)を見通した全体計画を立てましょう。

まずは、3年間(各学年)を通して、全体計画立ててみましょう。各単元でどんな指導事項を関連付けて指導するか○を入れてみましょう。4技能をバランスよく育成できていますか？下の20の指導事項が網羅できていますか？

中学校 外国語科 (1) 学年 全体指導計画マトリックス表 (学習指導要領との関連) ☆は必須

月☆	指導時数☆	単元名☆	単元の目標☆	言語材料	学習指導要領 言語活動の指導事項														
					ア 聞くこと		イ 話すこと		ウ 読むこと		エ 書くこと								
					(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
4	4	単元5 In. Your Words を紹介しよう	○家族や友達、語活動の先輩、あこがれの人などを紹介する文庫を書く。 ○書いた文庫を基に当該人物を紹介するスピーチを行う。	This is ~. (代名詞 (he, she, they, it 等))	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>
	6	単元6 グリーン家の人々/ Listening Plus2 友達のアプロフィール	○理解できないところがあっても、推測したり、聞き返したりして聞き続ける。 ○三人称単数現在形を用いて家族や友達のことを紹介する。 ○友人や教師を紹介するスピーチを聞いて、内容を正しく理解する。 ○三人称単数現在形の形・意味・用法を理解する。	三人称単数現在形	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>
	6	単元8 ナイアガラ の滝	○町や観光地を口頭で案内する。 ○ペアワークにおいて間違えることを恐れず話す。 ○動詞canを用いた文の構造を理解する。 ○疑問詞whenを用いた文の意味・構造を理解する。	We are going to ~. It's ~. We can see ~. When ~?	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>	○ <input type="checkbox"/>
	140																		

ステップ3の年間指導計画とリンクしています。

各学年140時間確保

# ステップ3

## 年間指導計画を立てましょう

### 第(1)学年年間指導計画例

☆は必須

◆ 全体計画のマ  
トリックス表で示  
した言語活動の  
指導事項を明記  
する。

◆ 指導事項や題材内容、言語  
材料の特徴を踏まえ、表現や  
理解の能力に関わる事項を中  
心に設定されることが望ましい。  
◆ 大さすぎる目標にしないこと。  
◆ 別の場面でも使えること。

◆ 設定した目標に関連する各  
観点において、どの「評価規  
準の設定例」を参考にするか  
を確認し、実際の評価機会  
で適用する評価規準を設定する。  
\* 「評価規準の例」について  
はP69を参照

◆ 学習指導要  
領解説P29～  
47参照  
(3) 言語材料  
(4) 言語材料  
の取扱い

◆ 小学校における外国語活  
動との関連に留意して、指導  
計画を適切に作成すること。  
特に第1学年においては、学  
校でどのような語彙や表現を  
用いた活動が行われている  
かを把握する。  
◆ 外国語活動の内容や指導の  
実態等を踏まえて、中学校で  
はどのような工夫をするのか  
を考える。  
◆ 既習事項を生かした指導  
の工夫等  
◆ 道徳や総合的な学習の時  
間等との関連

月 ☆	時 数 ☆	単元名 ☆	指導事項			中心となる 言語活動	単元の目標 ☆	単元の評価規準 ☆			言語材料	関連事項 ☆小学校との関連 -既習事項との関連 -各教科等との関連	
			L	S	R			W	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力
4	6	単元1			工								
5	8	単元2				イ							
3	6	単元8 ナイアガラの滝				イ	<p>○ 町や観光地を口頭で案内する。 ○ ペアワークにおいて間違ってしまうことを恐れないで話す。 ○ 助動詞canを用いた文の構造を理解する。 ○ 疑問詞whenを用いた文の構造を理解する。</p>	<p>町や観光地を口頭で案内することができる。</p>	<p>ペアワークにおいて間違ってしまうことを恐れないで話す。</p>	<p>町や観光地を口頭で案内することができる。</p>	<p>○ 助動詞canを用いた文の構造を理解する。 ○ 疑問詞whenを用いた文の構造を理解する。</p>	<p>We are going to～. It's～. We can see～. When～.</p>	<p>「英語ノート」で親しんでいる英文を使い、canの役割を推測させる。 Hello, friends. I can swim but I can't fly. Who am I?</p>

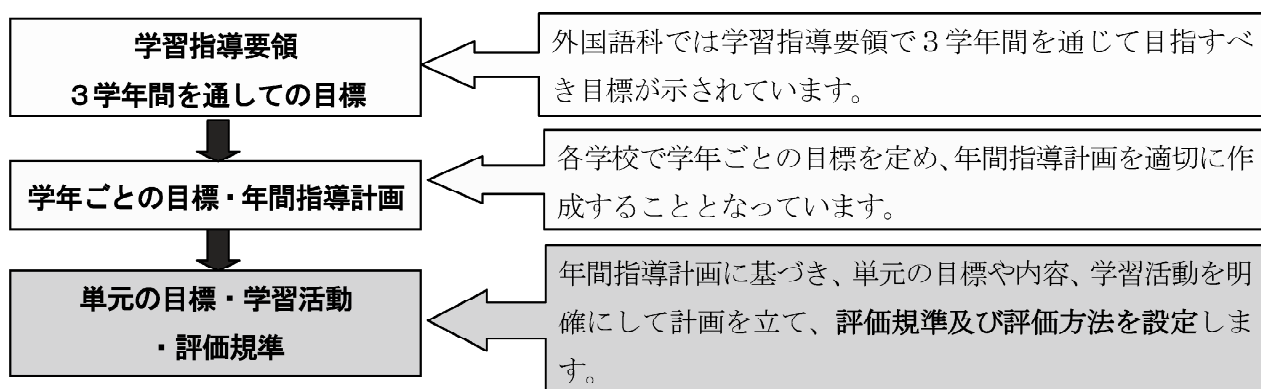
## 4 学習評価の在り方について

学習評価を行う際は、学習指導要領に示す内容が生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくことが重要です。各学校では学習指導要領の各教科等の目標、学年(分野)別の目標及び内容、文部科学省初等中等教育局長通知に示された評価の観点及びその趣旨等を踏まえた評価に関する資料を参考としながら、評価規準の設定、評価方法等の工夫改善を図る必要があります。

### (1) 評価規準の設定における基本的な考え方

外国語科においては、学習指導要領で**3学年間を通じて目指すべき目標**が示されており、各学校において学年ごとの目標を定め、指導計画を適切に作成することとなっています。このため、各学校の年間計画に基づき、単元の目標や内容、学習活動を明確にして計画を立て、評価規準を設定する必要があります。

また、異なる学年であっても同じ「評価規準の設定例」を活用する場合があります。例えば、「書くこと」における「外国語表現の能力」の評価規準の設定例である「語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる」を活用する場合を考えると、文を書かせて評価するという方法は同じですが、**「知識を活用して」の部分をもどの程度のものか**によって評価結果も異なるものとなります。学習の初期段階では、例えば「主語＋動詞＋目的語の語順を守って正しく書くことができる」など、文意を正しく伝達するための骨格になる部分を正確に表現できるかどうかを評価対象とすることが考えられます。そして、さらに学習が進んでいくと、例えば「受け身を用いて正しく書くことができる」などの評価規準を設定し、主語に応じたbe 動詞を選択しているか、それを適切な時制にしているか、過去分詞形を正しく用いているか、必要に応じて動作主をby ～で述べているかなど、細かい部分にわたって正確に伝えることができているかどうかを評価対象とすることが考えられます。



### (2) 評価規準の設定例等の活用

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成23年7月）第2編「評価規準に盛り込むべき事項等」には「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」が示されています。（P69 参照）

\*ここでは、【評価規準の設定例】を基に、ある単元の評価規準の設定を例として示しています。

**事例** 単元名 ナイアガラの滝 第1学年「話すこと」

能力に関する目標が中心となるのはじめにきます。

① 単元の目標

- (1) 町や観光地を口頭で案内する。
- (2) ペアワークにおいて、間違うことを恐れず話す。
- (3) 助動詞can を用いた文の構造を理解する。
- (4) 疑問詞when を用いた文の構造を理解する。

② 単元の評価規準

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうか

実際に言語活動をしている中で、様子を見取る

外国語で話したり書いたりして、自分の考え等を表現する能力を評価

自ら伝えようとする内容が大切。「話すこと」も「書くこと」も両方大切

外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解する能力を評価

「聞くこと」も「読むこと」も両方大切

語彙、音声、文法事項など、外国語をコミュニケーションの手段として使用するうえで必要となる言語運用についての知識を身に付けているかどうか

言語の背景にある文化などを理解しているか

観点	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
「話すこと」の <sup>1</sup> 評価規準	(言語活動への取組) 「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (コミュニケーションの継続) 様々な工夫をして、話し続けようとしている。	(正確な発話) 自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる。 (適切な発話) 場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。		(言語についての知識) 英語やその運用についての知識を身に付けている。 (文化についての理解) 言語の背景にある文化について理解している。
規準設定例	(言語活動への取組) ① 間違うことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。	(適切な発話) ① 場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。	「単元の目標」に関連する設定例を選ぶ	(言語についての知識) ① 文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。
単元の評価規準	① ペアワークにおいて、間違うことを恐れず話している。	① 町や観光地を口頭で案内することができる。	この単元は、この観点では評価しないこととした	① 助動詞canを用いた文の構造を理解している。 ② 疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。

具体化

単元の評価規準は、実際の評価場面で適用する評価規準を具体化して設定する

設定した目標に係る観点において、本事例では「話すこと」と「書くこと」について評価する計画とし、【「話すこと」の評価規準の設定例】と【「書くこと」の評価規準の設定例】を参考にした

<評価規準設定のポイント>

- ・目標に対応した評価規準にする。
- ・必要以上に設定しない。(1時間に1~2)
- ・実際に評価しやすい(具体的な)表現にする。

【「話すこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。</li> <li>・聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。</li> <li>・問答したり意見を述べ合ったりなどしている。</li> </ul> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなぎ言葉を用いるなどして話を続けている。</li> <li>・身振り手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。</li> </ul>	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。</li> <li>・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。</li> </ul> <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。</li> <li>・尋ねられたことに対して適切に応答することができる。</li> <li>・適切な声量や明瞭さで話すことができる。</li> <li>・聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。</li> <li>・与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。</li> </ul>		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音の違いに関する知識を身に付けている。</li> <li>・基本的な強勢の違いを理解している。</li> <li>・基本的なイントネーションの違いを理解している。</li> <li>・基本的な区切りについて理解している。</li> <li>・話を続けるために必要なつなぎ言葉や相づちをうつ表現などを知っている。</li> </ul> <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。</li> </ul>

【「書くこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違ふことを恐れず積極的に書いている。</li> <li>・読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。</li> <li>・辞書を活用して書いている。</li> </ul> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。</li> </ul>	<p>(正確な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。</li> </ul> <p>(適切な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。</li> <li>・感想や内容に対しての賛否に加えてその理由を書くことができる。</li> <li>・内容的にまとまりのある文章を書くことができる。</li> </ul>		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や符号を使い分ける知識を身に付けている。</li> <li>・文構造や語法、文法等に関する知識を身に付けている。</li> <li>・正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。</li> </ul> <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。</li> </ul>

(3) 指導と評価の計画

実際の指導と評価においては指導に生かすための評価（形成的評価）も含まれますが、ここでは観点別評価や評定につながる総括的評価に関わる部分を示しています。

\*ここでは『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）平成23年7月』第3編 「評価に関する事例」の「2 各事例のポイント」より事例1「3指導と評価の計画」について解説しています。

1時間の学習指導案を書く際には、第1時～第3時のように総括的評価をしない場合は、形成的評価としての評価規準を記載しましょう。

◇ 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい ・学習活動	単元の 評価規準	評価方法
1	<p>☆本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・warm-upとして、どんな観光地へ行ったことがあるかを対話する。</li> <li>・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</li> </ul>	ユの①	後日ペーパーテスト
	<p>○助動詞canを用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞canを用いた文の構造を知る。</li> <li>・教科書本文を通して、canの使い方を理解する。</li> <li>・教科書本文から、町や観光地を案内するときに使われる表現を探す。</li> <li>・canを用いた文を使えるように練習する。その際、町や観光地の場面も含め</li> </ul>		
2	<p>○助動詞canを用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞canを用いた文の構造を知る。</li> <li>・教科書本文を通して、canを用いた疑問文の使い方を理解する。</li> <li>・教科書本文から、町や観光地を案内するときに使われ</li> <li>・canを用いた文を使えるように練習する。</li> <li>・canを用いた疑問文を用いて応答練習する。その際、町や観光地の場面も含めることに配慮する。</li> </ul>	エの①	後日ペーパーテスト
3	<p>○疑問詞whenを用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問文whenを用いた文の構造を知る。</li> <li>・教科書本文を通して、whenの使い方を理解する。</li> <li>・教科書本文から、町や観光地を案内するときに使われ</li> <li>・whenを用いた文を使えるように練習する。その際、町や観光地の場面も含めることに配慮する。</li> </ul>	エの②	後日ペーパーテスト
4	<p>○町や観光地を案内するときの表現を理解しペアで会話する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・We are going to～、That's～、We can see～など教科書で用いられている町や観光地を案内する時に使われる表現をまとめる。</li> <li>・他の表現を補足説明する。</li> <li>・ペアで町や観光地を案内する表現を使う練習をする。</li> </ul>	アの①	活動の観察

☆は単元全体のねらいを確認する。

○はそれぞれの時間のねらい

十分習熟をさせた後、別の機会を設けて総括的評価を行う。

エとは「言語や文化についての知識・理解」の観点のこと ①は設定した単元の評価規準のこと

常に単元ゴールをイメージ。本単元を通して付けたい力を見据えて学習を重ねる。

ワークシートなどでどの程度文構造が理解できているか形成的評価をすることが大切。

5	<p>○町や観光地を案内する練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで町や観光地を案内し合う。</li> <li>・グループで町や観光地を案内し合う。</li> <li>・全体の前で町や観光地を案内する。</li> </ul>	アの①	活動の観察
6	<p>○町や観光地を案内する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで町や観光地を案内する練習をする。</li> <li>・バスで観光地を巡って場面を想定して、紹介する場所や相手を変えながら他の生徒と自由に案内し合う。</li> <li>・上記の活動中に教師のところへ来て、2か所の町や観光地を案内する。</li> </ul>	イの①	ダイアローグテスト
後日	<p>&lt;ペーパーテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の友人について、canを使って、その人のできることを書いて紹介する問題</li> <li>・場面を与えて適当な表現を書く問題</li> </ul>	エの① エの②	ペーパーテスト

指導して十分に練習をさせた段階で評価を

観点別評価においては、それぞれの評価規準ごとに「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）のどの状況にあるのか具体的な評価方法や評価の手順を設定して判断する。

(4) 評価に関する用語

形成的評価

指導が適切に進行しているかどうかを点検するために、指導過程の途中で行われる評価。①学習者の表情や行動の観察、②発問に対する応答の観察、③小テストの結果の分析などがある。

総括的評価

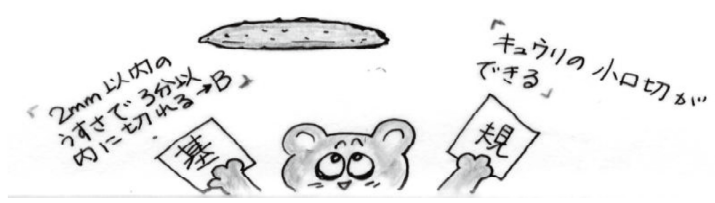
指導過程の目的をどの程度学習者が達成したかを学習者に伝えるためや、教師自身が指導を総括し次の新たな指導過程をよりよくするために行われるものである。評定につながるものである。

評価規準

到達目標（子どもに付けたい力）を、より具体的な子どもの成長の姿として文章表記したもの。

評価基準

評価規準で示した付けたい力（到達目標）に対して、どの程度まで習得しているのかを判断する指標（目安）についてより具体的に明示したもの。



(5) 事例 (教科ミドルリーダー育成事業で使用している様式)

第1学年 外国語科 単元計画 (展開例)

1年1組 生徒数36名

指導者 ○○ ○○ (高知市立△△中学校)

1 単元構想図

単元名 「ナイアガラの滝」(全6時間)

教材名 『New Horizon English Course 1』(東京書籍1年)

◆学習の流れ

第1・2時

○目標 ◆指導上の留意点

- ☆単元の見通しをもつ。
- ・新しい表現を使って、町や観光地を口頭で案内する(本単元の目標)。
- 助動詞 can を用いた文の構造を理解する。
- ◆小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現を使って導入する。

第3時

- 疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。
- ◆ゴールを意識して町や観光地の場面での練習も入れる。

第4時

- 町や観光地を案内する時の表現を理解し会話する。
- ◆教科書に出てくる表現から町や観光地を紹介するのに使える表現を見つけさせる。

第5時

- 町や観光地を案内する練習をする。
- ◆日本語を介さずに既習の表現やジェスチャーも使って練習させる。

第6時

- 町や観光地を案内する(ダイアログテスト)。
- ◆相手を変えながら自由に町や観光地を案内させる。その際必ず ALT にも案内するように言う。ALT との対話はビデオ撮影し後で評価する。

◆意識の流れ

【生徒の実態】

・小学校外国語活動では can を使った表現を学習したことがある。友だちと英語で会話する活動に意欲的に取り組める。

・外国語活動で出てきた表現だ! 聞き覚えがあるぞ!  
・こうやって文を作るんだ!

・when はいつ? ということを聞く表現なんだな。

・前回までの時間に出てきた教科書の表現を使って町や観光地を紹介することができるんだな。

・友だちと一緒に町や観光地を紹介する練習ができた!

・友だちと練習した後だから自信をもってダイアログテストに臨める!

【単元で付けたい力】

町や観光地を口頭で案内する。「話すこと」- (イ)



## 2 単元について

### 教材分析が大切!!

「このような内容・構成であり、このような言語材料を扱っている。だから、このような活動を通して、このような付けたい力（学習指導要領の言語活動の指導事項）を養える単元である。」ということに記載。話すことー（イ）

### (1) 単元観

本単元は、冬休みを利用してカナダへ来ているエミなど4人を、ホームステイ先のリサが、トロントやナイアガラへ観光旅行に連れて行くという内容である。単元を通して

We are going to ～、That's ～、It's～、We can see～、Here we are.など、町や観光地を紹介する表現が多く用いられている。従って、英語で町紹介をする活動を通して、学習指導要領に示された言語活動「話すこと」ー（イ）自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝える力を養うことのできる単元である。

### (2) 生徒観

本学級の生徒は英語への興味・関心が高く、1学期末に行った授業評価アンケートにおいては、「英語を聞いたり話したりする活動が好き」と答えている生徒が80%を超えていた。小学校外国語活動でコミュニケーションを楽しむ経験をしているため、授業中もペアやグループでお互いに協力しながら活動ができる。コミュニケーションを図ることを楽しめる一方、「聞き手に正しく伝える」ことに弱さがある。2学期末の「友だちを紹介する」スピーチテストにおいて、大半の生徒が原稿を覚えて言うことはできていたが、聞いている相手を意識して「適切な声量で話す」「大切なところは強調して話す」という観点において、概ね満足できる生徒は約半分という結果であった。

この単元で付けたい力に関すること（付けたい力が話すことであれば、話すことに関する関心・意欲や能力面等について数値も入れながら具体的に。また、言語材料に関わって既習事項と関連がある場合は、既習事項の定着度など）を書く。

### (3) 指導観

まず、単元のゴールを生徒と共有し、見通しをもたせる。そして、活用させたい文構造（can、when を用いた表現）を身に付けさせる。その際小学校の外国語活動で行ったクイズなどを使って導入し、子どもに「聞いたことがある」と実感させたい。小学校の時何度も聞いたり話したりした表現がどんな意味をもち、どんな使われ方をするのかに気付かせ、何度も口頭で練習したり、書いたりして定着を図る。その際、町や観光地の場面での練習を入れて単元のゴールにつなげる。

新出の文構造に十分習熟させた後、本単元のゴールである「町や観光地を口頭で案内する」ことを達成するために、ペアやグループでの活動を通して積極的にコミュニケーションをとる態度を育成したい。その際、本学級の生徒の課題である「相手意識」をもたせられるよう、練習段階から声量や話し方などの指導をしていく。

本時（1／6時）は本校の研究テーマである「思考力、表現力を育てる」ため、観光地だけでなく、電車の中や学校など自分たちの生活の場で何ができて何ができないか考え、それを英語で表現させる。

生徒の実態を踏まえ、単元で付けたい力を達成するためにどのような指導の工夫をするか。課題があればその手立てを書く。研究テーマを踏まえた指導の工夫もあるとよい。また、本時の指導の工夫もあると、授業参観や協議の視点ともなる。

## 3 単元の目標

- (1) 町や観光地を口頭で案内する。
- (2) ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話す。
- (3) 助動詞 can を用いた文の構造を理解する。
- (4) 疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。

## 4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①間違えることを恐れず話している。	①町や観光地を口頭で案内することができる。		①助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 ②疑問詞 when を用いた文の構造を理解している。

5 指導と評価の計画（全6時間）

時	学習内容	評価 総括的評価、(形成的評価)					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆本単元の見通しをもつ。</li> <li>・助動詞 <b>can</b> を用いた文の構造を知る。</li> <li>・ <b>can</b> を用いた表現の口頭練習</li> <li>・本文内容把握</li> <li>・教科書本文から町や観光地を案内するときに使われる表現を探す。</li> <li>・ <b>can</b> を用いた肯定文・否定文を使って町や観光地でできること・できないことを言い合いワークシートに書く。(Speaking and Writing 活動)</li> </ul>					<p>4 単元の評価規準 エ①と関連しているということ。</p> <p>○ エ① (形)助動詞 <b>can</b> を用いた肯定文・否定文が正しく書けている。)</p>	後日ペーパーテスト (ワークシート点検)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞 <b>can</b> を用いた疑問文を知る。</li> <li>・ <b>can</b> を用いた疑問文を使って友だちとできること・できないことについて尋ね合う。(インタビュー活動)</li> <li>・教科書本文を通して <b>can</b> を用いた疑問文を理解する。</li> <li>・教科書本文から町や観光地を案内するときに使われる表現を探す。</li> </ul>				○ エ① (形)助動詞 <b>can</b> を用いた疑問文を使って会話できる。)	後日ペーパーテスト (活動の観察)	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問詞 <b>when</b> を用いた文の構造を知る。</li> <li>・教科書本文を通して <b>when</b> の使い方を理解する。</li> <li>・ <b>when</b> を用いた文を使ってその場所や観光地について問答し合う。</li> <li>・教科書本文から町や観光地を案内するときに使われる表現を探す。</li> </ul>				○ エ② (形)疑問詞 <b>when</b> を使って「いつ〜できるか」の疑問文をワークシートに正しく書いている。)	後日ペーパーテスト (ワークシート点検)	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3時まで探した町や観光地を案内するときに使われる表現をまとめる。</li> <li>・ペアで町や観光地を案内する表現を使う練習をする。</li> </ul>	○				ア① ペアで日本語を介さず既習表現を使って積極的に会話している。	活動の観察
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで町や観光地を案内し合う。</li> <li>・グループで町や観光地を案内し合う。</li> <li>・全体の前で町や観光地を案内する。</li> </ul>	○				ア① ペアで日本語を介さず既習表現を使って積極的に会話している。	活動の観察
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ダイアログテスト</li> <li>・ペアで町や観光地を案内する練習をする。</li> <li>・バスで観光地を巡っている場面を想定し、紹介する場所や相手を変えながら他の生徒と自由に案内し合う。</li> <li>・上記の活動中に教師のところへ来て、2か所の町や観光地を案内する。</li> </ul>		○			イ① <b>can, when</b> 等の表現を使って、適切に町や観光地を口頭で案内することができる。	ダイアログテスト
後日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペーパーテスト</li> <li>・外国人の友人について、<b>can</b> を使ってその人のできることを書いて紹介する問題</li> <li>・場面を与えて適当な表現を書く問題</li> </ul>				○	エ①②	ペーパーテスト

6 展開 (例)

◆第1時 (1/6)

本時の目標	○助動詞 <b>can</b> を用いた肯定文・否定文の構造を理解する。	
観点別評価規準	○エ① (形)助動詞 <b>can</b> を用いた肯定文・否定文が正しく書けている。(知識・理解)	
準備物	『英語ノート2』Lesson4 の絵カード (例)、いろいろな場所の写真、ワークシート、授業用ノート	
学習の展開		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 単元のゴール確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の見通しを子どもにもたせるため、具体的なゴールイメージを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">町や観光地をできること等を含めて案内する</div>	
2 新出表現 (can) の確認 クイズに答える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校外国語活動で体験した言語材料や表現を使って導入する。</li> </ul> <p><b>T : Hello, friends. I'm black and white.</b></p> <p style="padding-left: 40px;"><b>I can swim. But I can't fly. Who am I?</b></p> <p>⇒You are a penguin</p>	
3 本時のめあての確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">できること、できないことを言ったり書いたりしよう</div>	
4 パターン練習 絵カードを参考にペアでできること・できないことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>『英語ノート』の絵カードを使い口頭で肯定文と否定文の練習をする。絵カードには動詞の文字を入れておく。</li> </ul>	
5 文構造理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のことを踏まえて板書し簡単に説明する。</li> </ul> <p>①<b>can</b> のあとは必ず動詞の原形</p> <p>②否定文は <b>can</b> の直後に <b>not</b></p>	
6 本文内容把握 新出語句確認後、観点をふまえて読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出語句確認後、事前に読み取る観点を伝えておく。</li> <li>本文から、案内したい場所でできること、できないことを表す表現に注目させる。</li> </ul>	
7 <b>Speaking</b> 活動 様々な場所の写真を見てそこで何ができて何ができないかペアで会話する。 <b>Writing</b> 活動 ペアで話したことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、教師が口頭でモデルを示す。</li> <li>単元のゴールを意識して案内したい場所の写真を提示する。</li> <li>十分言えるようになったことを確認してからワークシートに書かせる。</li> </ul> <p><b>【例】</b> 東京ドーム、公園、デパート、学校など</p>	エ① (形)助動詞 <b>can</b> を用いた肯定文・否定文が正しく書けている。(ワークシート点検)
8 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の評価規準に即して評価する。</li> <li>次時の内容や家庭学習について伝える。</li> </ul>	



◆第6時（6／6）☆ALT との TT

本時の目標	○町や観光地を案内する。	
観点別評価規準	○総 can, when 等の表現を使って、適切に町や観光地を口頭で案内することができる。 (表現)	
準備物	県内観光マップ（旅行会社のパンフレットやガイドブックを見て作成）、評価シート	
学習の展開		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 本単元のゴール確認	町や観光地（2か所）を先生に案内しよう	
2 ペアで練習 前時に行った案内やダイア ログをペアで練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手」を意識して練習させる。</li> <li>・場所に応じてできることなどを適切に伝えるよう指示する。</li> </ul>	
3 ダイアログテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内観光マップを前に貼って提示（初見のもの）</li> <li>・ダイアログテストの手順を説明する。 (バスで高知をめぐる場面とし、ALT に対して町や観光地2か所を案内するように言う。)</li> <li>・教室に観光地のポイントを準備する。</li> <li>・教室のポイントを回る間に必ず ALT のところに来て案内をし、ALT が評価する。(事前に打ち合わせをしておく。) ⇒評価シート参照</li> <li>・JTE は活動が止まっている生徒に対して助言する。(発音や語順・使用語句等) 十分力がついたら判断したら ALT のところへ行くように促す。</li> <li>・わからない動詞は辞書を使って積極的に表現するように促す。</li> </ul>	町や観光地を口頭で案内できる。 ALT によるテスト (ビデオ撮影し、後でも評価する。)
4 本単元のまとめ 本単元でできるようになっ たこと、まだできないことを 1文ずつ書く。		

【評価シート】(ALT 用)

Evaluation sheet			
Name( )			
Appropriate expression	A	B	C
Comment(intonation, stress, linking, clear voice ...)			

# Kochi ぐらり Map

